

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076700196
法人名	医療法人 弘医会
事業所名	グループホーム弘医荘 (ユニット名 II)
所在地	福岡県朝倉郡筑前町高上962
自己評価作成日	平成25年9月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成25年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成24年5月第Ⅱグループホームが設立。木のぬくもりがあり天窓などが設けられ、全体が明るく、入居者が過しやすい空間となっている。広めの庭もあり、周辺は田園風景にて散歩も楽しめる。当法人の施設(デイケア・託児所・有料老人ホーム)との交流を取り入れている。今年6月よりボランティアの先生による押し花教室では、入居者のいきいきとした表情が見られ、月1回の三味線・バスハイクも楽しみにされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺に広がる田園地帯の一角に、母体の病院・デイケア・有料老人ホーム・託児所と併設した敷地内にある2ユニットのグループホームである。近隣には民家が少ないが、地域の会長の誘いで、地域行事には積極的に参加し地域との連携を大切にしている。地域のボランティアでの陶芸や押し花教室には利用者が全員参加しており、それぞれの個性を活かして出来上がった作品は、地域の協力も得ながら、町の学習センターで展示会を開いている。月に1回、バスハイクを計画し、桜・ひまわり・コスモスなどの季節を楽しむ機会を作ったり、中学校の福祉学習の受け入れたり、地域の高齢者とのふれあいなどもあったりして、地域に密着した取り組みに力を入れている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当グループホームの理念に基づき、意識しながら日々の介護に取りくんでいる。ミーティング等で再確認を行い、意識付けを強化している。	「家庭的な生活の中で、笑顔、安らぎ、生きがいを共に築いていながら、地域との連携、交流を大切にする」を理念とし、職員全員が意識し実践している。時には話し合いの場や会議の中でお互いに唱和し意識強化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れや地域の行事(ふれあいサロン、夏祭り等)に参加したり隣接するデイケア・託児所・有料老人ホームとの交流も行っている。地域の区長より行事等の案内を頂いたりと交流の場を広げつつある。	広い田園が広がり民家の少ない中で、現在町内会には加入していないが、地域の区長から行事への誘いがあり、参加している。地域住民のボランティアによる陶芸や押し花教室、地域の中学生の福祉学習受け入れなどで利用者とのふれあいが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の中でグループホーム1・Ⅱ合わせて1名のキャラバンメイトがいる。中学校の福祉学習の機会として、受け入れている。町の文化祭にも出展している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年度始めにテーマを決め、入居者家族、行政職員、民生委員、区長、相談員、看護部長が参加し、司会は職員が交代で行い、そこでの意見を職員で確認し、介護の質向上に努めている。	2ヶ月ごとの会議には福祉課・包括支援センター・地区長・民生委員・利用者・家族と職員が交代で参加し意見交換を行っている。活動状況の報告や、地域との関わりの現状、行政からの制度における現状報告など活動に活かせる取り組みとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席していただいております。社協、福祉課、包括支援センター等、常日頃気軽に相談できる体制にある。	市町村とは開設当初から協力体制ができています。町長が利用者の100歳の祝いに記念品を持参したり、時には陶芸教室に町長が参加し一緒に作成することもある。町の学習センターで作品展を行うなど協力体制ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りや声かけにて対応し、玄関の施錠は防犯の為にしているが、日中はしていない。もし、外出された時は、さりげなく声かけし、一緒に散歩している。夜間、転倒防止の為ベッド柵をしている方もいるが、家族の同意書をもった上で行っている。	職員は、具体的禁止項目についての理解はできている。定期的に会議などでも再確認をしている。現在は、転倒防止を重視し家族の了解の下、就寝時のみベッドのサイドレールをしている利用者が数人いる。玄関は安全重視上、夜間は施錠しているが日中は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修に参加し、不適切なケアについて話し合ったり、理解を深めるようにしている。職員の疲労ストレスが入居者に影響していないかの把握、周辺徹底を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議の中で、後見人制度について福祉事務所、包括支援センターの方よりDVD、パンフレットで研修を行ったり、外部の研修会、セミナーにも参加、制度への理解を深めている。	現在までに制度を活用している利用者はいないが、何時でも安心して利用できるように日頃から学習している。行政作成のパンフレットやDVD等で学習や外部研修に参加し、制度についての理解に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をされる前に相談や見学に来ていただき、家族、本人の意向を聞き、十分な説明を行い、不安や疑問などを納得していただいた上で、契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の声を大切にし、不満や苦情を訴えられる雰囲気作りと、話をゆっくり傾聴する時間が持てるよう、努力している。玄関に意見箱を設置している。	玄関に意見箱が置かれているが、現在までに利用者はいない。できるだけ家族と職員が向き合えるようにし、自由に話ができる環境に取り組んでいる。家族からの食事について食べやすいように柔軟くして欲しいとの要望があり、対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月一回行い、連絡ノートを活用し、日常運営に職員の意見や、思いをプラスして運営につなげている。	職員は、運営に関する要望があればいつでも管理者や職員間での話し合いができています。管理者は、毎月のミーティングでは、職員が意見をだせる雰囲気になるように取り組んでいる。浴槽に入る際に利用者の身体状況に合わせた踏み台を導入することについて要望があり、すぐに対応できています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体病院の基本に合わせ、向上心を持って資格修得すると、手当等支給がある。勤務表になるべく希望を取り入れて作成してもらっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	18歳から60歳までの性別関係なく採用。60歳以降再雇用がある。	採用に際しては、性別や年齢に関係なく採用している。採用後は職員が生き活きと能力を活かして活動できるように支援している。併設の託児所を利用し職員が安心して活動できるように取り組んでいる。研修参加や資格取得への支援として公休日の調整をしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	病院管理者より定期的説明会実施。公的機関、介護事業者研修、外部から出張してもらい、受講している。(運営推進会議の機会に)	法人代表者は年に1回、研修や運営推進会議において人権学習を実施している。利用者の人権を尊重した接遇の実施に向けた教育や啓発に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の意志が大事であり、声かけをしている。地域公的機関、部会出席、案内状等を吟味し研修している。新人も現職も病棟実習を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	部会、筑前町、あらゆる訪問等を受け入れ、見学を通じ、協力体制を取り、勉強中である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの相談、受付からの利用に至ることが多いので、なるべく本人にも一緒に来ていただき、様々な思いを傾聴し、受け止める努力をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの理念、現状を説明し、家族の思いを受け止める努力をしている。最終的には本人が納得された上で利用されることが一番である。利用開始前に本人に会いに行くなど、関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当法人の居宅支援事業所等があり、担当者との話し合い、相談を行い、最良の方向性を検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であることを常に念頭におき、尊敬の気持ちを持って接するように心がけている。又、本人の得意分野を見出し、生かしていける様支援している。介護されるのではなく、入居者から学ばせて頂いているという姿勢を心がけている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活全般、情報を共有、共感し、安心感を与える様、いつでも受け入れる事を伝え、御家族が離れて暮らしていても、変わらず良い関係が築ける様、支援する努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の了解を得て、夏祭り参加や図書館へ行かれたり、昔から利用されている美容院など、外出されたりと、一人一人の生活習慣を尊重している。電話や近所の方の面会も快く受けている。	利用開始前に利用していた図書館や美容院、墓参りなどへ同行の協力体制はできている。現在は、家族が同行している。近隣の友達の訪問もあり、利用者の居室で談話を愉しんでいる。利用者の馴染みの人や場との継続された人生を大切にしたい支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格、相性等を把握し、孤立することがない様、スタッフが間に入り、よりよい支援が出来る様心がけている。入居者同士、優しい声かけや支え合っている関係が多く見られ、その関係を支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調悪化などで、入院による退居が殆んどである。入院されても面会に行ったりと、馴染みの関係が途切れない様、努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人、家族に希望を尋ねたり、日常の会話や表情から、本人の思いを把握する努力をしている。本人がどのように過ごしたいのかを家族を交えて検討している。	利用開始前に自宅や入院先の病院を訪ねたり、本人にホームへ見学に来ていただく等の工夫をして、聞き取りを行い情報を集めている。また、日々の会話の中や表情から本人の意向をくみ取り希望が叶えられるように支援している。定期的な図書館の利用、病院の売店への付き添い、押し花のレクリエーションなどの要望に応えている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの本人の生活スタイルを出きるだけ維持できるよう、コミュニケーションを多く取りながら、その人を取り巻く機関からも、情報提供を得るようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録を通じて、日常生活や心身状態を把握し、又、職員間での情報の共有にも努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の思いや意見を聞き、ミーティング等で話し合い、職員間で情報を共有し、個々の情態や希望を具体的に介護計画を作成している。	利用開始時に対応した職員が聞き取りを行い、情報をもとにケアマネジャーが作成する。基本は3～6ヶ月毎に見直しを行い、状況が変わった場合はその都度対応し現状に即したプランとなっている。説明は家族の訪問時に必ず行っている。見直しの際は全職員から意見を聞き取りプランに反映させている。作成されたプランは申し送りや伝達し職員全体で共有されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録に気づき、対応方法など記入し、体温表や申し送りノートなどを併用している。介護記録を基に介護計画の見直し、評価を実施、努力している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当法人の病院が隣接しており、家族の方の状況に合わせ、受診時などの必要な支援は、柔軟に対応行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署は避難訓練の実施、警察署には安否の見守りなどお願いしている。又、地域の方への支援の声かけを行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の医療機関に、2～4週間に一回、定期受診を行っている。異常時などにはその都度、受診を行い、家族に報告している。訪問診療や往診にも来てもらっている。	これまでのかかりつけ医を継続している方もいるが、同一法人の病院が敷地内にあり、24時間対応を行っているため、利用開始の説明時に希望して変更する方が多い。同一法人の病院受診には職員が付添い、その他の病院には家族が付き添っている。訪問歯科の往診もあり各自が適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当法人である病院の看護部長が、毎日グループホームに来られ、日常の健康管理の、指導や助言、対応を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に伴い、環境の変化により、不穏が見られたりする為、家族とも相談しながら面会に行き、病棟との情報交換で状態把握に努め、早期退院できるよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と共に、家族、職員と今後の変化に備えての話し合い、連絡を行っている。重度化、終末期に向けた意思確認、入居契約時、説明、同意書を確認している。	重度化、終末期に向けた意思確認を利用契約時に説明し、同意書で確認を行っている。ホームは看取りを実施していきたいと考えているところだが、同一法人の病院での終末希望をする家族が多く、これまで看取りを行ったことはない。職員に対しては終末期の支援に関する研修を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	DVD観賞、外部、院内勉強会を行っている。緊急マニュアルを作成し、その状況に応じて対応できるよう努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難時のマニュアル作成、院内合同訓練にも参加している。又、運営推進会議の中、消防署立会いの中、夜間設定での訓練を行い、地域との協力体制を行っている。地域の消防団に参加して頂く事もある。	年2回夜間想定訓練を行っており、1回は敷地内にある同一法人の病院と合同で行っている。本年度は6月と9月に実施し、関係者に周知してもらうために運営推進会議開催時に行った。職員全員が体験できるよう訓練の回数を増やすことを検討している。スプリンクラーも設置しており、備蓄物品は病院で管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、表情や言動を観察し、平等に本人を傷つけないような、声かけを心がけている。個人情報、守秘義務は徹底して行うよう記録物は管理している。	利用者の個人記録物は鍵のついたキャビネットに保管している。利用者の尊厳に配慮した言葉かけを行うよう、申し送りの際などに意識付けを行っている。不適切な発言があった際は職員間でも注意し合える雰囲気づくりが出来ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を自己決定できるよう、ゆっくり過す時間を通じて、話を聞いたり、声かけする努力をしている。「待つ介護」の心がけ		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のスペースで生活できるよう、その人らしさが出せるような環境づくりなどにも、配慮しながら職員側の都合で決めることのないように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回の移動美容車を利用されたり、外出時には化粧をして楽しんでもらっている。個々で化粧される方もおられ、その人らしい身だしなみが出来る様、支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に一度の調理には、入居者の好みなどを献立に取り入れ、野菜の皮むきなど手伝ってもらってる。	同一法人の病院で調理した食品をホームの台所で配膳し提供している。職員は利用者と共に楽しく食事をしている。週に1度は、調理の日を設けており、月の担当者が利用者の好みや要望に応じてメニューを作成し喜ばれている。利用者の能力に応じ野菜の皮むきなどを一緒にやっている。利用者家族や知り合いの方から差し入れされた食材も使用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院の管理栄養士が作成したバランスの取れた献立で、食事は提供している。水分はこまめに提供し、いつでも飲める様に、キーパーを準備している。スタッフ全員が把握できるように、記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い、できる所は自分でして頂き、口腔内の清潔維持に努めている。週一回ポリデント洗浄を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切にし、声かけを行い、見守りをし、できる事はして頂き、自立に向けた支援を行っている。チェック表を活用し、各々の排泄パターンを把握できるよう努力している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別にトイレへの誘導助助を行っている。声掛けは本人の耳元で行いプライバシーの配慮もなされている。利用開始後におむつから布パンツやパット利用に改善したり、大きなパットから小さなパットに変更できた事例があり、排泄の自立に向けた支援が行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体温表や日常生活記録表等を参考にし、排便のコントロールに努めている。腹部マッサージ、水分補給、場合によっては下剤も使用している。排便確認が取れない方は声かけや臭気等で確認している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を尊重しつつ、清潔が保てるよう支援している。準備できる方はしていただいたり、一緒にしている。皮膚観察も同時に行っている。	2日に1回は入浴するようしており、希望があれば毎日の入浴も可能である。入浴の出来ない時は、清拭・陰部洗浄を行っている。車いすの方が多く重度化しているが希望する方は可能な限り浴槽につかってもらおうようにしている。拒否のある方にも、本人の意思を尊重して時間をずらしたりと工夫をしている。洗浄剤・シャンプーも各自の好みや状態に応じて使い個々に応じた支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、個々の内服が分かるようにしている。変更があれば情報を共有し確認している。勉強会等に参加し、内服の安全に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞や本を読みたい方には、提供したり、洗濯物たたみ、新聞折りなど、日常の生活の家事など、本人が必要とされてることを、感じて、張り合いが持てる支援をしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月一回のバスハイクは楽しみにされている。グループホーム合同で近隣の行事等に参加している。読書好きの方の為に、近くの図書館への外出も計画し、実行している。	月に1度のバスハイクは利用者の楽しみとなっている。法人内のデイケアで開かれる催し物にも参加している。日常的に天候・体調などに配慮して可能な限り外出の機会を設けている。芝生の中庭があり、そこでお茶会を開いている。雨の日は、病院をつなぐ屋根のある通路を散歩して1日1回は外気に触れるよう支援している	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持されている方は数名おられるが、本人、家族の意向を取り入れながら、お金を所持される方、買物などで支払われる方など、その人に応じた支援を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、気兼ねなく利用できるように支援している。押花教室で作った暑中見舞いのはがきを出したり、写真付きの弘医荘だよりを発行している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓があり、外光も十分入り、季節を感じられる造りになっている。花、写真、押花の作品を飾ったり、居心地よく過ごされるよう、家庭的な暖かさを心がけている。ゆったり過せるソファも置いている。	車いすでも安全に移動が出来るよう造られた室内は広々とし、見晴らしもよく、利用者がどこにいても職員に声を掛けやすいように工夫されている。天窓が多く、差し込む日差しも暖かい。また、押し花・陶芸などの利用者の作品がさりげなく飾られてある室内では利用者がゆったりと過ごせるよう配慮がなされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVのあるスペースとソファにすわり、ゆっくり話せるスペースがある。食堂の正面には、中庭があり天気の良い日には、自由に過せるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使用されていた家具、生活用品を持ちこまれ、写真や花、押花などを飾られ、それぞれ暖かみのある部屋になっている。	タンスやベットは備え付けとなっているが、希望があれば持ち込みも可能である。位牌や布団、使い慣れたテーブルの上には、ポットや湯飲みを置いたり、壁には家族の写真、手紙、作品等を飾ったりして、それぞれが居心地良く過ごせるよう配慮された居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、各個室、共同場所など分かりやすく表記している。（表れを下げるなど）車イス移動もスムーズに行える、安全な設計になっており、自由に動かれている。		